

JA-POP甲子園 JAかながわ西湘が新人賞

JA全農肥料農薬部が主催する「JA-POP甲子園 2015」で、JAかながわ西湘・久野宮農経済センターが「ジェイエース・ラウンドアップ部門」で新人賞を獲得した。9月18日に東京都内で開かれた表彰大会で、同センターの倉橋智センター長がJA全農肥料農薬部の天野徹夫部長より表彰状と記念品を受け取った。

新人賞は、同コンテストに初めて応募した店舗が審査対象となる部門で、チャンスは一度限り。県内での新人賞受賞は、2009年のJA横浜（メルカートきた）、2010年のJAあつぎ（グリーンセンター）以来で、5年ぶりの快挙。

久野宮農経済センターの受賞理由は、「手作りで作成されたPOPの数々に注目した。ジェイエースは登録要件変更の内容を中心に、ラウンドアップは大型規格のキャンペーンを中心に、お買い得感が伝わってくる。10キロ袋には表情と吹き出しが付け加えられ、キャラクターとして存在感を出している。アイデア、手作り感、共に初参加とは思えない作品」と講評された。

倉橋センター長は「店舗活性化につながればと参加を決めたが、まさか受賞するとは」と驚く一方で、「店舗スタッフ全員でアイデアを出し合い、一丸となって売場作りに取り組んだ。センスのある職員が模造紙に下書きして、色塗りは全員で行うなど、皆で協力してモチベーションを高めていった」と振り返った。商品の特徴やキャンペーン内容が一目でわかる工夫や、お客様の印象に残るディスプレイにより「大型規格商品の売上が伸びるなど、売場づくりの効果が出ていると思う」と話した。

JA-POP甲子園は、JA生産資材店舗の活性化とJA組合員の満足度向上を目的に2002年から開催しており、今年も14回目。大型ホームセンターなどJA生産資材店舗の競合店が台頭する中で、消費者に支持される、より良い売場づくりを目指す同コンテストへの応募数は年々増加しており、2015年大会は全国39県から176JA・631店舗が参加した。JA全農が取り扱う代表的な生産資材「ジェイエース・ラウンドアップ」「AVH・MY」の2部門で、大型陳列や簡易陳列の訴求力を競う。一度に両部門とも応募する事も可能だが、応募数増加に伴い難易度も上がっている。表彰式後は、全国の受賞店舗の代表者が交流を図った。



新人賞を手にする倉橋センター長

